



おおた ゆうすけ
太田 裕介 議員



心の健康に対する取組は

問 自殺対策を継続的かつ包括的に進めるためには、市としての明確な方針を打ち出すことが重要。本市として「自殺防止条例」の制定についてどのように考えているのか。

答 は、自殺者を減らすのではなく、なくすことが大事であると認識しており、そのためには、行政や関係機関だけでなく、市民や地域、事業者などの理解と協力が不可欠である。現時点では条例の制定は考えていないが、まずは、これまでの一次予防に加え、関係機関や庁内関係部署と連携した二次予防の取組を推進していくことが重要と考えている。市民の悩みや困り事に寄り添う各種相談や総合相談窓口などの支援、連携体制の確立に向け取り組んでいきたい。

営農型太陽光発電の許認可

問 太陽光発電施設設置に際して、周辺環境への影響をどう評価し、業者に指導していくか。

答 配慮のポイントをしっかりと熟知した上で、住民への説明や設計の際に事業者に対して指導や周知を行い、守ってもらうように伝えている。



一般的な営農型太陽光発電施設



あんな ま
安間 安



関係人口創出・拡大の取組

問 ふるさと納税における「コト消費型」体験型「返礼品の強化に向けた方向性は」。

答 コト消費型の返礼品は新たに法多山厄除けだんごの季節限定「桜だんご引換券」を登録し、60品目となった。地域資源を活用した新たなコトづくりとシテップロモーションの連携を図ることで、市外の方が本市を訪れ、地域と関わる機会の創出効果が期待される。まちの発展にとって重要であるため、積極的に取り組んでいきたい。

また、来訪者との「関わり」を維持するため、公式インスタグラムのフォロー獲得や「メローねっと」の登録を促進し、本市のイベント情報をプッシュ型で届けるほか、ふるさと納税や移住・就業支援など、庁内各課はもとより、市内事業者との連携を強化し、関係人口の拡大に向けて取り組んでいきたい。

新たなまちづくりへの方策

問 「リビングラボ」の設置に向けた行政の支援体制は。

答 「ふくろい産業イノベーション推進協議会」内に「(仮称)リビングラボ研究会」を立ち上げ、本市にふさわしい在り方を検討し、民間の発意を起点とした新たなプラットフォームの立ち上げに向けて、取り組んでいきたい。

※多様な関係者が集い、新たな製品やサービス、社会課題の解決策を共創・実証する仕組み



法多山桜だんご引換券



とつか てつお
戸塚 哲夫 議員



地域計画の策定状況と今後の取組は

問 地域計画は、予定どおり本年3月に完成するのか。地域計画により明らかになった本市農業の実態と、課題への今後の対応は。

答 現在、農業経営基盤強化促進法に定める地域計画案の公告と縦覧を行っており、予定どおり3月末までに策定する。実態については、水田や茶畑に規模農業者への集積が進む一方で、担い手の高齢化や後継者不足など、将来的な担い手不足が大きな課題となっている。課題への今後の対応は、農業の大規模化や効率化により、持続可能な農業経営に取り組みめるよう、引き続き、農地の集積、集約を進めるとともに、新規就農者の育成や、市内外からの多様な経営体を募るなど、新たな担い手の確保に、積極的に取り組んでいきたい。

市南部の主要幹線道路の整備

問 県道中野諸井線(富里中地内)の改良の見通しは。

答 昨年2月、関係者の同意が得られ、バイパス整備による事業化が決定した。整備完了後は現道が市へ管理移管される。工事の着手時期は、境界確認、詳細設計を行い、計画や必要な用地などについて、関係者の同意が得られたら順次着手していきたい。



水田が広がる様子(五十岡地区)